

春告草

第119号 平成30年10月3日 進路指導部発行

センター試験出願は157名！ 出願率は99.4% ほぼ全員が出願

センター試験の出願が一昨日から始まった(出願期間 平成30年10月1日～10月12日)。現役生の出願は在籍校経由に限られることから、校内では先週に締め切り、志願票の点検、取りまとめを行った。出願率は99.4%で、ほぼ全員が出願している状況である。

受験教科の登録状況をまとめたので、以下にレポートします。5年生は来年度の科目選択決定に向け、進路を絞り込まなければいけない時期になりました。先輩方の状況も参考にしながら、慎重に考えていこう。

地歴2科目登録は3割、理科②2科目受験は2割5分

センター試験出願にあたっては受験教科の事前登録が必要で、志願票裏面(第II面)にこれを記入する。(右図参照)

地歴・公民、理科は受験科目数や受験パターンにより、内訳が細かく分かれていて、登録状況は右下のグラフに示した通りである。

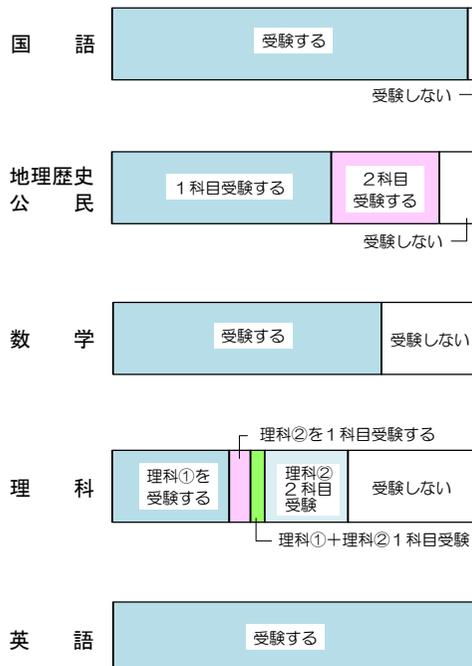
国公立大文系学部は、地理歴史・公民2科目を課すところが多いが、大学・学部によって、他教科と合わせた中から3科目を課しているケースもある。本校では、地歴・公民を2科目受験で登録した人は全体の約29%である。1科目登録者は全体の約60%で、これには私大文系希望者、国公立大理系志望者が含まれている。

理科の受験科目指定は複雑で、A：理科①を受験、B：理科②を1科目受験、C：理科①+理科②1科目受験、D：理科②2科目受験 の4パターンから1つを選ぶ。Aは国公立大文系受験の標準パターンで約32%。これは理科基礎4科目の中から2科目を受験する。文系で理科2科目という科目負担が気になる人もいると思うが、試験時間60分で2科目を解答するので、問題量は少なく、内容も基本問題が中心である。出題内容も落ち着いてきているので、しっかり準備すれば「満点」のチャンスも十分にある。今年度の本校生徒の成績を見ても、物理基礎、化学基礎、生物基礎で満点(50点)はそれぞれ、2人、4人、9人、45点以上(満点を除く)は化学基礎5名、生物基礎11名という結果が出ている。物理基礎は受験者が6名と少ないが、44点以上(満点を含む)が5名と好成績である。文系志望者にとって理科①はセンター試験での「稼ぎどころ」である。一方、国公立大理系志望者はDパターンの理科②2科目受験が大多数で約23%を占める。Cパターン理科①+理科②1科目は医療・看護系志望者に多いが、全体では約4%で少数派だ。

教科名	選択記入欄	
国語	A…受験する X…受験しない	<input type="checkbox"/>
地理歴史 公民	A…1科目受験する B…2科目受験する X…受験しない	<input type="checkbox"/>
数学	A…受験する X…受験しない	<input type="checkbox"/>
理科	A…理科①を受験する B…理科②を1科目受験する C…理科①を受験、理科②を1科目受験する D…理科②を2科目受験する X…受験しない	<input type="checkbox"/>
外国語	A…受験する X…受験しない	<input type="checkbox"/>

志願票裏面の受験教科登録欄 □の中にA、B、Xなどを記入する

受験教科登録状況



2学期以降の進路行事、入試日程等

受験手続 6年生はセンター試験出願が終わり、志望校合格に向けてはこれまで以上に勉強に集中して取り組まなければいけない時期になる。10月上旬にセンター試験100日前を迎えるが、試験までの日数が100日を切るとこれまで以上にプレッシャーを感じることもあるかも知れない。しかしそう感じているのは、決して自分一人ではないということを忘れないことだ。口にこそ出さないが、みんな同じように感じている。右表に受験勉強スケジュールを記載したが、一般的なものであり、個人事情も考慮した上で、柔軟に考えて構わない。また自分の立てた計画が予定どおりに進まなくても決して焦らないことだ。

勉強の精度を上げ、弱点の補強、得意分野の強化を図る一方、忘れてはいけないのが「受験手続」である。センター試験志願票に記載した、受験教科などの確認はがきは10月中旬までに到着するはずであるから、正しく登録できたかどうかなどを確かめよう。12月中旬にはセンター受験票が到着する。試験会場を確認するとともに、受験票には写真をすぐに貼っておこう。受験写真は出張撮影に申し込まなかった人は、各自で早めに撮っておく。私大も含め個別試験への出願は1月からだが、国公立大も含めてネット出願が増加していて、紙の願書を廃止した大学も多い。ネット出願に関しては、事前登録が必要な大学もあるので、日程にゆとりのあるうちに各大学のHPで手続き方法などを確認しておこう。間違いのないように準備しておきたい。

進路実現へ向けて 4年生、5年生は11月に大学模擬講義がある。5年生は科目選択説明会が先週行われたが、科目選択は安易な気持ちで決めないようにすることだ。両学年とも、模試が日程に組まれている。事後の復習が実力養成には大切だ。各自の課題克服に向けては、地道な努力が一番である。継続は力なりだ。

時期	校内行事他 ●は大学入試関連	受験勉強スケジュール
応用力養成期	9月 6年学診テスト(11,12) 5年選択科目説明会(26)	●志望校合格への学習課題を把握する ●受験までの学習計画を練り直す ●問題演習中心の学習に切り替える ●基礎の遅れは早めにリカバリーする ●受験に向けて生活習慣の改善に着手
	10月 ●センター試験100日前(11) ●センター出願(～10/12) 中間考査(9～12) 6年学診テスト(16,17) 5年修学旅行(23～26) ●センター確認はがき受領	
	11月 4,5年学診テスト(6) 6年学診テスト(5,6) 4,5年大学模擬講義(13,15)	●出題分野&設問別の対策を完了 ●苦手分野は11月中を目途に ●センター対策に重点を移していく
実戦力養成期	12月 期末考査(3～6) ●センター試験受験票受領 ●6年調査書申請 ●センター試験会場下見 ●募集要項・願書入手	●センターの実戦演習を積み重ねる ●センターの時間配分戦略を立てる ●本番を見据えた生活リズムを確立 ●体調管理
	1月 ●6年センター試験(19,20) 4,5年チャレンジセンター(20) ●6年データリサーチ(21) 4年学診テスト(22) 5年学診テスト(22,23) ●6年データリサーチ返却(25) ●私大出願 ●国公立大出願(1/28～2/6) ●私大入試開始	●センター前から受験校の実戦演習 ●記述式問題の答案作成力を磨く ●知識事項の抜けを最終チェック ●受験期間中も学習時間を確保する
	2月 5年学診テスト(12,13) 4年セカンドステージ発表会(23) ●国公立前期試験(25～)	
3月	学年末考査(1～6) ●公立大中期試験(8以降) 卒業式(9) ●国公立後期試験(12以降) 4,5年基礎学力テスト(16) 修了式(25)	



有力私大 合格3.8万人減 3年で定員厳格化を受け抑制

春告草前号で最近の私大入試事情を「受験生数増加、合格者数減少」と説明し、入学定員の厳格化が影響していると分析したが、読売新聞にも関連記事が掲載されていたので紹介する。

(以下、読売新聞9月27日付朝刊の記事より)

大都市圏の有力私立大が近年、合格者数を大幅に減らしている。都市圏への学生の集中を防ごうと、文部科学省が入学定員の管理を厳しくしたためだ。早慶など17大学の2018年春の合格者数(一般入試)は厳格化前の15年春に比べて計3万8000人減少した。浪人生も増えており、大手予備校は「来春も狭き門が続く」と分析している。

■副作用

「受かると思ったのに……」。今春、立教大学経営学部の一般入試で不合格だった都内の男性(19)は通っていた予備校講師に驚かれた。昨年12月の模試では合格率が高い「B判定」。実際の入試でも、自己採点で「受かった」と手応えを感じていた。男性は、上智大や早稲田大の受験にも失敗し、浪人生を送る。「自分の時に合格者が減るなんて」とため息をついた。

有力私大の入試が厳しさを増す背景には、政府の地方振興策がある。都市部の大学に学生が集中することで地方の大学の志願者が減り、若者の地方離れが進んだとして、文部科学省は定員管理を厳格化。大規模校(定員800人以上)の場合、従来は入学者数が定員の1.2倍以上になると補助金(私学助成金)を全額カットしていたが、16年春は、1.17倍、17年春は1.14倍、18年春は1.1倍と上限を段階的に下げた。

私学助成金は学生数や教職員数などに応じ国から交付され、私大の収入の1割程度を占める。早稲田や日本大など大規模校では約90億円(17年度)に上る。予備校関係者は「私大が入学辞退者を想定し、定員より多く学生を合格させてきたが、補助金カットを防ごうと合格者数を絞り込んだ。その結果、合格ラインが上がった」と指摘する。地方振興策が思わぬ副作用を生んだ形で、今春、明治大文学部などを不合格になり、浪人中の女性(18)は「国の政策で合格者がこれ以上減るのは困る」と表情を曇らせる。

「補助金失わないため」

■追加合格で調整

読売新聞社が受験生に人気のある東京都内や関西圏の私大17校に尋ねたところ、18年春の入試の合格者数は、定員管理が厳しくなる前の15年と比べて16校で減っていた。最も減ったのは立命館大(京都)で、5853人減の2万4995人。法政大(東京)も2001人減、早稲田大(同)や明治大(同)、関西学院大(兵庫)なども3000人以上減った。

法政大の担当者は「辞退者が何人出るかわからず、入学者数の予測は極めて難しい。補助金を失わないためには合格者数を抑え、あとは追加合格で調整せざるを得ない」と話す。

今春の入試では、入学者数の調整が見込み通りに進まず、3月末まで追加合格を出す私大があった。

■浪人増え狭き門

大手予備校によると、18年春の私大の志願者数は364万人。合格者数の抑制もあり、実際の倍率は15年ぶりに4倍を超えた。

浪人生も増えた。大学入試センターによると、18年のセンター志願者のうち浪人生は10万3948人で、15年入試と比べて5220人増となった。大手予備校の首都圏や近畿地方の教室に通う浪人生も、昨年より2~3割多いという。

文科省は当初、来春には定員超過のペナルティーをさらに強化する方針だったが、「厳格化による一定の効果があつた」として9月19日に見送りを発表した。

「現役合格を目指し、受験生一人当たりの受験校数も増えている。来春も定員管理の厳格化は続くため、都市部の大規模な私大を目指す受験生には引き続き厳しい入試になるだろう」との見方をする意見は多い。

◆18年春私大合格者数 (一般入試)

大学名		15年春からの増減
早稲田	14532人	-3749人
慶應義塾	8817	-728
上智	5085	-1224
学習院	3526	-521
明治	21216	-3693
青山学院	7313	-2772
立教	10452	-2746
中央	15198	-1435
法政	17548	-2001
日本	29370	1126
東洋	21504	-2929
駒澤	8550	-1484
専修	8437	-2434
関西	16026	-3134
関西学院	9882	-3244
同志社	16143	-1254
立命館	24995	-5853
合計	238594	-38075

受験前に入学後の奨学金給付を申請 入学前予約型奨学金制度

首都圏など大都市圏への学生集中を抑制したいという文科省の意図がある一方で、首都圏私大の学生確保への経営努力が見受けられる。受験前に返還不要の奨学金を予約できる大学が、首都圏私大を中心に導入が増加している。

受験前に申込・審査・採用通知

現在、日本国内で奨学金を利用している人のほぼ9割が、日本学生支援機構(貸与型)の利用者だが、ここ数年、導入が進み、注目を集めているのが「入試前予約型奨学金制度」だ。この制度の特徴は、受験前に審査があることだ。

申請した後、受験する前に大学が定める諸条件について審査(保護者の年収制限など)があり、問題がなければ採用通知が大学から送付される。受験し、めでたく合格すれば、入学後に所定の手続きを行って、奨学金受領や授業料の減額・免除がある。給付型なので返済義務はなく、有難い制度だ。

他の給付型の奨学金制度では、募集が入学後であることや、指定された入試の成績優秀者が対象だが、「予約型奨学金」は事前審査を通り、試験に合格すれば良い。受験前に奨学金支給が確定するので、マネープランが立てやすい。

私大の場合は、首都圏以外の出身者に限定されている場合が多いが、首都圏出身者OKという学校もあり、志望大学がこの制度を導入しているかどうかチェックしてみる価値はある。また、導入している大学を志望校の一つに加えることもできるだろう。国立大学でこの制度を導入している学校もある。

2018年度「入試前予約型奨学金」の主な実施例

2018年度入試で「入試前予約型奨学金」制度を導入した大学の中から、都内在住の生徒が申込みできる大学の一部を紹介する。新年度の募集に関しては各大学のHPで確認してください。

<p>お茶の水女子大学 “みがかずば”奨学金</p> <p>【給付額】年額30万円 【給付期間】2年間(各年度で報告書提出) 【採用者数】約25名 【応募条件】一般入試、新フポルト入試、推薦、高大連携特別入試の出願を予定する、学習成績概評A段階以上の現役生。父母の年収合計が900万円未満(税込み、事業所得等の場合は492万円未満)。 【申請期間】9月1日～20日(今年度募集は終了) 【給付までの流れ】書類審査→内定(選考結果は10月中旬に、本人と学校長に通知)→出願・受験・合格・入学手続→正式採用</p>	<p>電気通信大学 UEC修学支援奨学金</p> <p>【給付額】入学一時金20万円、毎年度10万円、授業料全額免除 【給付期間】入学一時金は1回、授業料は4年間(2年目以降の継続については、成績等で判定) 【採用者数】男子・女子各10名以内 【応募条件】一般入試の受験予定者。入学後、同大学の教育・広報活動に協力。 【申請期間】11月1日～11月30日 【給付までの流れ】書類審査→内定(選考結果は1月上旬までに、本人と学校長に通知)→出願・受験→合格・入学手続→正式採用</p>	<p>立教大学 セントポール奨学金</p> <p>【給付額】年額40万円(理学部は60万円) 【給付期間】4年間(学業成績、収入基準により継続審査あり) 【採用者数】250名 【応募条件】一般入試またはセンター利用入試を受験する者で評定平均値が4.0以上。主たる家計支持者の収入・所得金額が給与所得世帯においては500万円未満、給与所得世帯以外においては150万円未満であること。 【申請期間】1月5日～1月24日 一般入試出願と同時に申請する 【給付までの流れ】書類審査→出願・受験→内定(選考結果は2018年2月16日に、本人へ通知)→合格発表</p>
<p>上智大学 新入生奨学金</p> <p>【給付額】授業料相当額、授業料半額相当額、授業料3分の1相当額を学業成績と経済状況等を総合判断し採用額を決定 【給付期間】1年間 【応募条件】入試出願者で、上智大学への入学を第一志望とし、経済的理由により入学が困難、かつ出身学校の成績が優秀な者。給与収入で700万円(税込み)、事業所得で400万円が目安だが、詳細は要項で確認のこと。 【申請期間】12月3日～1月10日 【給付までの流れ】書類審査→出願・受験→内定(入試の合格発表前に郵送で通知)→合格・入学手続→正式採用</p>	<p>東京理科大学 新生のいぶき奨学金</p> <p>【給付額】年額40万円(成績、家計基準については毎年審査を行う) 【給付期間】4年間(薬学部は6年間) 【採用者数】100名 【応募条件】昼間学部の一般入試を受験する自宅外通学予定者。給与所得世帯においては700万円未満、給与所得世帯以外においては292万円未満の者。 【申請期間】募集要項は10月公開予定 【給付までの流れ】書類審査→内定(選考結果は10月中旬に、本人と学校長に通知)→出願・受験・合格・入学手続→正式採用</p>	<p>日本大学 日本大学創立130周年記念奨学金</p> <p>【給付額】年額30万円 【給付期間】最短修学期間 【採用者数】約250名 【応募条件】日本大学学部(法学部第二部は除く)又は短期大学部の一般入試に出願予定の者で、父母の収入・所得金額を合算した金額が800万円以下(給与所得以外の場合は350万円以下)。 【申請期間】11月1日～30日 【給付までの流れ】書類審査→内定(選考結果は12月25日までに採用通知)→出願・受験→合格・入学手続→正式採用</p>